

がくさい キッチン / さつまいもとツナの炊き込み御飯

～お手軽ツナ缶で出汁要らず簡単調理～



約 70 分

<1人あたり>

エネルギー
374 kcal

たんぱく質
4.3 g

食塩相当量
1.1 g

材料 (4人分)

白米 2合
ツナ缶(オイル漬) 1缶(70g)
さつまいも 1/2本(150g)
しめじ 1/2袋(60g)
水 適量(炊飯器に準ずる)
★調味料 酒 大さじ1
塩 小さじ1/4
濃口醤油 大さじ1
ツナ缶オイル漬液 1缶分
★青ネギ 適量

作り方

- さつまいもは1.5cm角に切り、水にさらして水気を切る。
- しめじは根本を切り、房をほぐす。
- ツナとオイル液を分ける。
- 炊飯器の内釜に研いだ米と★調味料を加え、2合の目盛りまで水を入れ、軽く混ぜる。
- さつまいも・しめじ・ツナを上に乗せて広げ、通常炊飯にする。
- 炊き上がったら混ぜて器に盛付け、仕上げに青ネギを散らす。

一栄養のおはなし

さつまいもの主成分はでんぶんで、加熱により一部が糖質に変わり甘みを増します。カロリーは米の3分の1程度と低く、ビタミンCや食物繊維が多く含まれており、体の外も内もキレイにしてくれる女性に嬉しい食材です。美味しいさつまいもの見分け方は、皮の色が鮮やかでハリがあり、中央がふくらっていて、傷や黒ずみ・ひげ根がないものが良いとされています。

第5回

外来診療案内

【受付時間】 平日：午前8時30分～11時30分(整形外科：初診・新患は10時30分まで)
午後1時00分～3時30分(運動器リハビリテーション診療：16時まで)
土曜日：午前8時30分～11時30分(運動器リハビリテーション診療・原医師予約診療のみ)

【診療時間】 午前9時～/午後1時30分～

整形外科

	月	火	水	木	金	土
午前	菅(※1) （第1・3・5週） （紹介予約のみ）	小牧	日野	上島	手術日	原 (予約のみ)
	菅(※2) （第2・4週） （紹介予約のみ）					
	担当医 上島					
	下村					

内科

	月	火	水	木	金	土
午前	再診 (予約制)			的場 (循環器)		的場 (循環器)
	初診		森 (第2・4週)			

リハビリテーション科

	月	火	水	木	金	土
午前	初診 (予約制)					三上
	再診 (予約制)			担当医		

皮膚科

	月	火	水	木	金	土
午後	初診 (予約制)					
	再診 (予約制)			沼		

運動器リハビリテーション診療

	月	火	水	木	金	土
午前	再診 (予約制)					
	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

【担当医紹介】

整形外科

上島 圭一郎	病院長	京都府立医科大学 臨床教授 / 日本股関節学会 学術理事 日本整形外科学会 専門医・指導医 / 日本リハビリテーション医学会 専門医
菅 寛之	部長	京都府立医科大学 副教授 / 日本整形外科学会 専門医・指導医 / 日本骨關節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 関節鏡技術認定医 日本スポーツ協会 公認スポーツドクター / 日本リハビリテーション医学会 認定臨床医
日野 学	副部長	日本整形外科学会 専門医・指導医 / 認定スポーツ医・認定リハマチ / 日本骨關節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 関節鏡技術認定医 日本整形外科学会 専門医・指導医 / 日本リハビリテーション医学会 専門医
小牧伸太郎	副部長	日本整形外科学会 専門医・指導医 / 認定スポーツ医・認定運動器リハビリテーション医 日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
下村 征史	常勤医師	京都府立医科大学 特任助教 / 日本股関節学会 理事長 / 日本リハビリテーション医学会 理事長 日本整形外科学会 専門医・指導医 / 日本リハビリテーション医学会 専門医・指導医
久保 俊一	所長	京都府立医科大学 特任助教 / 日本股関節学会 理事長 / 日本整形外科学会 専門医・指導医 / 日本リハビリテーション医学会 専門医・指導医
邦夫	非常勤医師	京都府立医科大学 特任助教 / 日本整形外科学会 専門医・指導医 / 日本リハビリテーション医学会 専門医

リハビリテーション科

※部長・常勤医師は病棟専従のため、外来担当はありません	
前田 博士	部長
横間 恵美	常勤医師
久保 元則	常勤医師
三上 靖介	非常勤医師
沢田 光思郎	非常勤医師

内科・循環器内科

森 洋一	理事長	京都府医師会顧問 (前会長) / 日本循環器学会 専門医 / 日本小児科学会 専門医
的場 弥生	非常勤医師	日本循環器学会 専門医
沼 沙織	非常勤医師	日本皮膚科学会 専門医

皮膚科

沼 沙織	非常勤医師	日本皮膚科学会 専門医
------	-------	-------------

再診予約について ご予約の変更は、前日(月曜日の場合は金曜日)までの平日 午後2時～4時にお願いいたします。専用ダイヤル 075-754-6070

再診予約について

ご予約の変更は、前日(月曜日の場合は金曜日)までの平日 午後2時～4時にお願いいたします。専用ダイヤル 075-754-6070

一般財団法人 京都地域医療学際研究所 がくさい病院

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番9 TEL. 075-754-7111

<http://www.gakusai.or.jp>

ホームページ



Facebook



笑顔で健康に未来を歩んでいくみんなのために。

がくさい Watch

| 広報誌 | がくさいウォッチ



INDEX

- ・病院機能評価受審 認定に関する特集
- ・くすりについて知ろう！
- ・がくさいキッチン



一般財団法人 京都地域医療学際研究所
がくさい病院

病院機能評価受審 認定に関する特集



院長 上島 圭一郎
うえしま けいいちろう

確かな技術、最新の知識、
充実したスタッフ体制により
患者・家族が納得できる医療を
進めて参ります

がくさい病院 院長の上島圭一郎です。

がくさい病院は、昭和58年に京都市北区の地で開設し、平成25年に現在の中京区へ病院移転しました。これまで関節外科・スポーツ整形を中心とした整形外科診療と回復期リハビリテーション診療を病院の柱として、痛みや障害で困られた方が日常生活や社会生活に戻れるよう地域の医療に貢献して参りました。

充実した医師体制とチーム医療

整形外科診療では、菅寛之部長を中心に整形外科専門医5名の体制により年間1,200件(2018年度)を超える手術実績があり、特に人工関節手術(膝・股関節)などの手術では京都府内でもトップクラスの実績があります。またスポーツリハビリテーションでは、トップアスリートからウィークエンドスポーツを楽しむ一般の方までスポーツ外傷や障害に対するリハビリテーション治療を専門に行っております。

回復期リハビリテーション診療においては、リハビリテーション科専門医である前田博士部長を中心に3名の



がくさい病院



チーム医療の必要性や重要性

病院機能評価の「看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している」「各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している」「多職種が協働して患者の診療・ケアを行っている」という審査項目のいずれでも、当院は「A:適切に行われている」評価を得ています。

昨今、医療界ではチーム医療の必要性や重要性が言われています。各職種単体では患者さんへの治療・看護・リハビリテーションには限界があります。しかし、医師・看護師・療法士を始め多職種が連携し協働することで点と点がつながり、より良い治療・看護・リハビリテーションが提供できるようになります。そのため回復期病棟では、1ヶ月に1回、多職種が集まりカンファレンスを開催し治療・看護・

リハビリテーションの方向性などの検討を、一人ひとりの患者さんに対して行っています。この取り組みがチーム医療(チームアプローチ)の一環になります。患者さんにとて、より良いチーム医療が出来るよう日々取り組んでいきたいと考えています。



看護部部長
細越 万里子

医療安全はコミュニケーションから

病院機能評価の審査項目の一つに『患者・部位・検体などの誤認防止対策を実践している』という項目があり、当院は「A:適切に行われている」という評価を頂きました。

患者誤認は重大な事故につながる可能性があり、患者確認は欠かせない作業の一つです。このような医療安全に関連したマニュアル作りと医療安全体制の強化を、病院機能評価受審をきっかけとして進めてきました。

医療安全体制は、院長直轄で医療安全管理者を配置し、医療安全管理委員会の組織横断的な事例報告ルートの構築や院内周知を強化しました。インシデント報告書は、システム導入により簡便になり各部署で検討した対策の情報共有についても関連部署に周知するようになりました。医療安全に対する意識も変化し、報告件数も増加しています。

安全文化は、医療に限らずあらゆる分野において重要

となっていて、我々医療従事者はより安全な医療をいかにして提供できるかという事が問われます。チーム医療が進み多職種協働の場面では、チーム内の確実なコミュニケーションが安全の鍵になります。医療事故の7割近くは、コミュニケーションエラーと言われており、患者情報の適正な伝達や情報共有はとても重要です。今後もコミュニケーションエラーをなくすよう多職種で取り組み、患者さんの信頼を得られるよう努めてまいります。



医療安全管理責任者
山田 美香

機能評価受審をきっかけに参加したネットワークの繋がりは、施設間の情報交換の場となり、課題や取り組みを共有する場となっています。

「病院機能評価」は日本医療機能評価機構による評価です

患者さんの命と向き合う病院には、その医療の質を担保するために備えているべき機能があります。

国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする公益財団法人として1995年に設立された日本医療機能評価機構は、病院が備えているべき機能について、中立・公平な専門調査者チームによる「病院機能評価」審査を行い、一定の水準を満たした病院を「認定病院」としています。

評価を行う項目は「患者さんの視点に立って良質な医療を提供するために必要な組織体制」や、「実際に医療を提供するプロセス」、「病院全体の管理・運営体制」など、約90項目があります。

信頼できる医療を確保することを目的に、専門調査者が病院の機能を評価することで、その病院の課題を明らかにして医療の質改善を支援するものです。



第4回

くすりについて知ろう！

今回は「外用薬(のまないくすり)」のなかでも「ぬり薬」についてご紹介します。

ぬり薬の種類

効能・効果で分けると、炎症を抑えるステロイド薬、保湿薬、抗生物質が入っている薬、水虫等に使う抗真菌薬、また抗ウイルス薬、痛み止めの薬などがあります。基剤の違いにより、「軟膏」、「クリーム」、「ローション」などさまざまな種類のぬり薬があります。ぬり薬は効果のもとになる成分(主薬)が、ベースとなる成分(基剤)に混ぜ合わせてあります。和菓子の羊かんに例えると、主薬は小豆で基剤は寒天です。

使用感、刺激、皮膚への浸透しやすさなどが異なるため、症状やぬる部位により使い分けます。

軟膏とクリームとの違い

軟膏

べたつき感はありますが、ほとんどの皮膚疾患に使用できる刺激の少ないぬり薬です。
皮膚保護作用や皮膚柔軟作用にすぐれています。



クリーム

刺激があるため、傷がある部位やジユクジユクした部位には適していませんが、のびがよく使用感のよいぬり薬です。



軟膏やクリームの使用量の目安

成人の人差し指の先端から第一関節までチューブから絞り出した量を1FTU(フィンガーティップユニット)と言い、約0.5gに相当します。絞り出した量が約0.5gになるのは25gや50gの大きいチューブです。

5gのチューブでは人差し指の先端から第一関節までを2回絞り出した量が約0.5gとなります。約0.5g(1FTU)を成人の両方の手のひらの面積にぬります。

ただし、ぬる量が制限されている薬もあるので、医師の指示に従い、不明な場合は必ず医師や薬剤師に確認してからぬってください。



成人の両手の手のひら面積分に相当

災害が起った時などに備えて、「お薬手帳」などを利用すれば、どのような薬を使っているのか確認することができる安心です。